



大阪中之島美術館 2027年度展覧会のお知らせ

このたび、大阪中之島美術館で2027年度に開催する展覧会のラインナップが決定しましたのでお知らせします。
なお本リリース以外の展覧会が決定次第、随時お知らせいたします。

つくる女性の100年

2027年1月9日 (土) — 3月22日 (月・休)

テート美術館 ターナー展——崇高の絵画、現代美術との対話

2027年3月13日 (土) — 6月27日 (日)

開館5周年記念特別展

大阪中之島美術館オールスターズ☆それをまとめて見たかったです！

2027年4月10日 (土) — 7月19日 (月・祝)

生誕130年 山名文夫 つかまえてはなさないデザイン

2027年7月15日 (木) — 9月26日 (日)

生誕120年 東山魁夷展

2027年10月9日 (土) — 12月12日 (日)

ウィーン工房

2027年10月9日 (土) — 2028年1月10日 (月・祝)

竹久夢二 時代を創る表現者

2028年1月29日 (土) — 4月9日 (日)

つくる女性の100年

会期：2027年1月9日（土）－ 3月22日（月・休）

女性の表現者たちのおよそ100年の歩みをたどる展覧会です。道を切りひらいた作家から現代を生きる作家まで、教育環境や表現手段、ライフスタイル等の変化に注目しつつ、幅広く紹介します。表現方法や制作背景はそれぞれに異なりますが、手を動かし思考を重ね、何かを生み出す姿勢は、誰しにも共通して見出すことができます。本展は、女性のみならず現代を生きるすべての人々に、創造力と表現する勇気を示してくれることでしょう。



左上：由里本景子《望遠鏡》1940年 京都市美術館 ＊半期展示
右上：山沢栄子《What I Am Doing No.1》1976/1986年
大阪中之島美術館 © YAMAZAWA Eiko
左下：宮脇綾子《アネモネ》1969年 豊田市美術館

【主催】 大阪中之島美術館、毎日新聞社

【会場】 大阪中之島美術館 5階展示室



テート美術館 ターナー展——崇高の絵画、現代美術との対話

会期：2027年3月13日（土）－ 6月27日（日）

英国絵画史上、もっとも偉大な画家、ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー（1775 - 1851年）。絵画史に新地平を切り拓いたターナーは、移ろう光や大気をはじめとする世界のありようを、ときに克明に、ときに抽象化して描きだしました。彼の作品は、見る者に自然の「崇高」を経験させるものとして高く評価されてきました。本展は、世界最大のターナー・コレクションを誇るロンドンのテート美術館が所蔵する油彩・水彩画など80点以上を紹介する、待望の回顧展です。本展では、ターナーの作品群をテーマごとに再編し、ゆるやかな時系列に沿って展示します。さらに、ターナーの絵画と現代美術を併置して対話させ、この巨匠の問題意識が後世のアーティストたちの関心と響きあうことに眼を向けます。



左上：J.M.W. ターナー《捕鯨船エレバス号に万歳！ もう一頭獲ったぞ！》1846年展示 テート美術館 Photo: Tate
右上：J.M.W. ターナー《グリゾン州の雪崩》1810年展示
テート美術館 Photo: Tate
左下：J.M.W. ターナー《ヴェネツィア—サンタ・マリア・デッラ・サルUTE聖堂》1844年展示 テート美術館 Photo: Tate

【主催】 大阪中之島美術館、テート美術館、朝日新聞社、関西テレビ放送

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室



開館5周年記念特別展

大阪中之島美術館オールスターズ☆それをまとめて見たかったです！

会期：2027年4月10日（土）－ 7月19日（月・祝）

大阪中之島美術館は、2022年2月、「さまざまな人と活動が交錯する都市のような美術館」のコンセプトのもと、大阪の中心部、江戸時代には藩邸や蔵屋敷が建ち並んだ地・中之島に開館しました。そのコレクションは、海外の近現代絵画、日本の洋画、日本画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなどの領域に渡り、総数は約7000点に及びます。19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術作品を核としながら、大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向けた、屈指のコレクションです。

本展は、大阪中之島美術館のコレクションから、選りすぐりの美術作品をご紹介します。モディリアーニ、ボッチョーニ、マグリット、佐伯祐三、菅橋彦、吉原治良など、国内外で高く評価される作品のラインナップはさながら「オールスター」。それぞれの作品の魅力を深堀しながら展覧します。



左上：アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》

1917年 大阪中之島美術館

右上：佐伯祐三《ブティ・レストラン》1927年 大阪中之島美術館

左下：菅橋彦《夏祭枕太鼓（浪速風俗十二図）》1962年（昭和37）

大阪中之島美術館

【主催】 大阪中之島美術館、読売新聞社、MBSテレビ

【会場】 大阪中之島美術館 5階展示室



生誕130年 山名文夫 つかまえてはなさないデザイン

会期：2027年7月15日（木）－ 9月26日（日）

大正から昭和にかけて活躍したデザイナー・山名文夫（1897 - 1980年）。最も広く知られているのは資生堂在籍時代に手掛けた細く滑らかな線描によるデザインといえるでしょう。本展では、資生堂時代の活動に加え、大阪の出版社・プラトン社で手掛けた雑誌のイラストレーション、スーパーマーケット・紀ノ国屋のシンボルマークやロゴタイプのデザインなど、多岐にわたった山名の活動と作品を仕事の性質・特徴により分類して紹介します。さらに、同時代に活躍したデザイナーとの交流や彼らによる作品をあわせて検証することで、山名が生きたデザイン界の様相も明らかにします。関西初となる大規模回顧展です。



左：メインビジュアル

右：山名文夫 《紀ノ国屋 ショッピングバッグ》 1974年

【主催】 大阪中之島美術館、毎日新聞社

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室

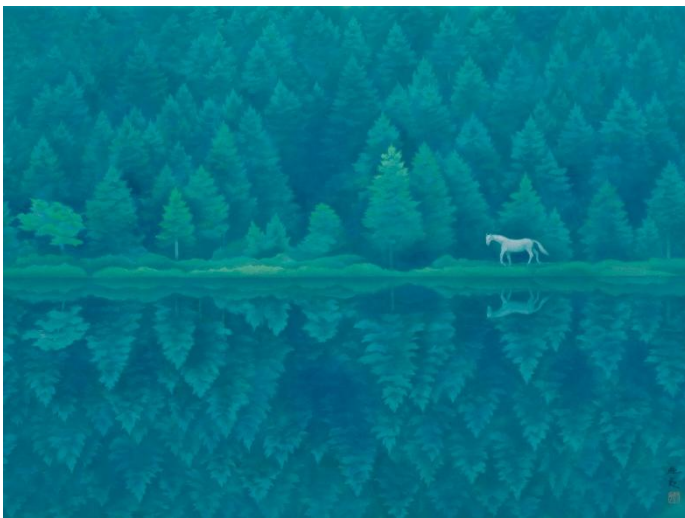


生誕120年 東山魁夷展

会期：2027年10月9日（土）－ 12月12日（日）

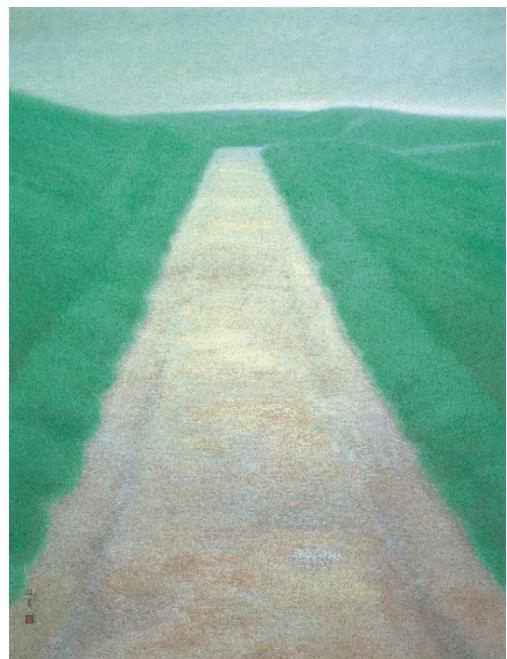
情感にみちた静謐な風景画により、戦後を代表する国民的日本画家と謳われてきた東山魁夷（1908－1999年）。東山の風景画の大きな特色は、初期の代表作《道》（1950年）が早くも示したように、平明な構図と澄んだ色彩にあります。日本のみならず、ヨーロッパを旅して研鑽を積んだ東山は、装飾性を帯びた構図においても自然らしさを失わず、青が印象的な澄んだ色彩の力も駆使し、見る者の感情とも響きあう独自の心象風景を探求し続けました。

東山の生誕120年を迎えるにあたり開催する本展では、東山の画業を代表作でたどるとともに、20世紀とともに生きた東山の創作の全貌を紹介します。



左：東山魁夷《緑響く》1982年 長野県立美術館・東山魁夷館

右：東山魁夷《道》1950年 東京国立近代美術館



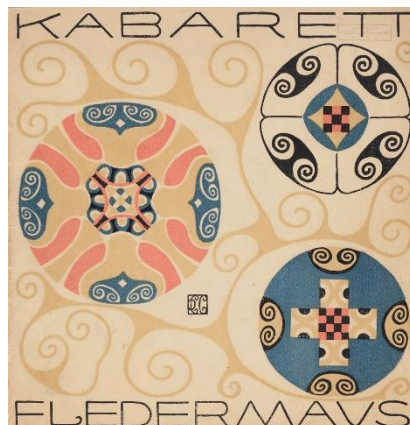
【主催】 大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、神戸新聞社

【会場】 大阪中之島美術館 5階展示室

ウィーン工房

会期：2027年10月9日（土）－ 2028年1月10日（月・祝）

「時代にはその芸術を、芸術にはその自由を」と謳い結成されたウィーン分離派。その総合芸術の精神のもと、ウィーン工房は芸術と手工業を結ぶ協働体として設立されました。本展は、ウィーン工房の活動や成果、そして盛衰を、「第8回ウィーン分離派展」等、きっかけとなる6つの展覧会を軸にご紹介します。英国のアーツ・アンド・クラフツ運動の思想を吸収し、芸術家と職人が肩を並べて共に新たな「芸術生活」の理想を追求する一方で、欧州他国に後れを取るデザイン力を引き上げ、競争力をもつブランド確立という現実的な目的に向かったウィーン工房。創設者のひとり、ヨーゼフ・ホフマンに師事した女性デザイナーたちが、第一次世界大戦を契機に主軸として活躍したことも大きな特長です。ウィーン工房が設立されてから125年。その全容と本質に光をあて、従来のウィーン工房に対する理解やイメージを更新する試みです。



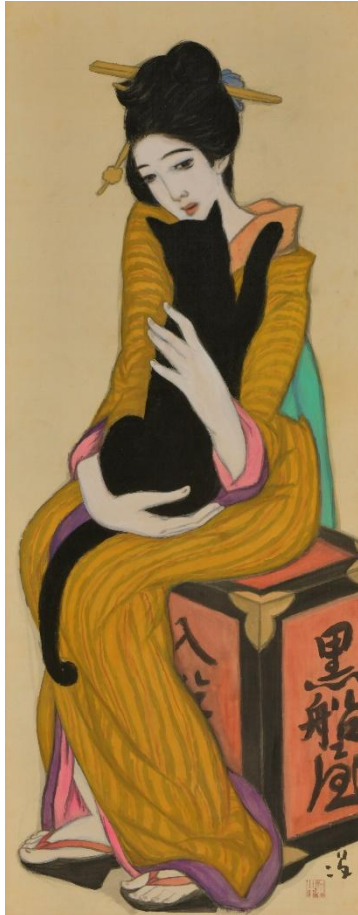
左上：上野リチ=リックス《ウィーン工房テキスタイル「朝露」
デザイン下図》（部分）1927年頃
右上：カール・オットー・チェシュカ（装丁）《キャバレー〈フ
レーダーマウス〉上演本 第1巻》1907年
左下：ヨーゼフ・ホフマン《コーヒーサービス》1910年頃

【主催】 大阪中之島美術館
【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室



竹久夢二 時代を創る表現者

会期：2028年1月29日（土）－ 4月9日（日）



竹久夢二（1884 - 1934年）は、画家、詩人、ジャーナリスト、デザイナー、イラストレーターなど、いくつもの顔をもつ表現者として、明治の終わりから昭和のはじめにかけて活躍しました。「夢二式」と呼ばれた女性像で人気を博したほか、日用雑貨や衣服のデザイン、本や雑誌作り、流行歌の作詞といった時代をリードする仕事により、続く世代にも大きな影響を与えています。その幅広い活動はまさに、クリエイターの先駆けといえるでしょう。本展では、夢二の最高傑作として名高い《黒船屋》をはじめ、日本画、版画、スケッチ、多種多様なデザインなど、全国の夢二コレクションから約500点の作品や資料を集め、彼の比類ない仕事に迫ります。

竹久夢二《黒船屋》1919（大正8）年 竹久夢二伊香保記念館

【主催】 大阪中之島美術館、毎日新聞社

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室



Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE

5年目となる2026年度は、橘 葉月（2000年、大阪府生まれ、滋賀県在住）、迫 鉄平（1988年、大阪府生まれ、神奈川県在住）、乾 真裕子（1997年、大阪府生まれ、大阪府在住）の3名をご紹介します。各展覧会の詳細については、それぞれ開催の約2カ月前にお知らせする予定です。



Osaka Directory 13 Supported by RICHARD MILLE 橘 葉月

2026年11月14日（土）— 12月13日（日）

橘 葉月《私はここにいて、同じ窓を見ている》2025年



Osaka Directory 14 Supported by RICHARD MILLE 迫 鉄平

2026年12月19日（土）— 2027年1月17日（日）

迫 鉄平《2024年9月24日、上人ヶ浜公園／劇場》2025年



Osaka Directory 15 Supported by RICHARD MILLE 乾 真裕子

2027年1月23日（土）— 2月21日（日）

乾 真裕子《月へは帰らない》2020年

【主催】 大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

【Supported by】 RICHARD MILLE

【協賛】 サントリーホールディングス株式会社、NTT西日本株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社
京阪ホールディングス株式会社、株式会社フジオフードグループ本社、株式会社パソナグループ

【会場】 大阪中之島美術館 2階多目的スペース

【料金】 入場無料

「Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE」について

「Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE」は、大阪中之島美術館が関西・大阪21世紀協会と共同で主催する、関西ゆかりの若手作家を中心に個展形式でご紹介する展覧会です。これからの時代を象徴する、新たな表現を生み出す作家を紹介していきます。ディレクトリとは、IT用語でデータを整理し分類するためのフォルダ等を意味します。本シリーズを通して、将来活躍が期待される関西の若手アーティストの情報を美術館というディレクトリに格納、保管し、さらに、ここ大阪中之島美術館から彼らの活動を広く世にご紹介し、世界に羽ばたくことを支援していきます。